

# 会 議 録

## 1 会議名

令和4年度第1回上越市文化財調査審議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

〈委嘱状交付、委員長・副委員長選出〉

〈議事・報告〉

(1) 令和4年度文化行政課事業概要について（報告） （公開）

(2) 上越市文化財の活用状況について （現地見学） （公開）

## 3 開催日時

令和4年5月31日（火）午前10時00分から午前11時50分まで

## 4 開催場所

上越市教育プラザ 研修棟 中会議室、旧今井染物屋

## 5 傍聴人の数

なし

## 6 出席した者の氏名（敬称略）

・委員：五百川裕（委員長）、浅倉有子（副委員長）、天野和孝、伊野義博  
西澤睦郎、松田慎也、欠席（2名）

・事務局：早川義裕教育長、中西歴史文化指導監

文化行政課：新保課長、佐藤副課長、渡辺係長、草間主任学芸員、小林主任

## 7 発言の内容（要旨）

〈委嘱状交付、委員長・副委員長選出〉

委員長）五百川裕委員

副委員長）浅倉有子副委員長

〈議事・報告〉

(1) 令和4年度文化行政課事業概要について（報告）

### 【事務局】

資料1をもとに、主な事業について説明。

① 歴史文化推進費

○上越市「地域の宝」認定制度について

・令和2度に60件、令和3年度に26件認定し、情報発信や助言、団体同志のネット

ワークづくりの下支え等を行ってきた。様々な相談への対応や活動への参加を通じて活動団体と関わるなかで、文化財を保存・活用する活動の活性化などにも結びついているものと感じている。

- ・認定は、令和2年度から3年間行うこととしており、現在最終年となる令和4年度の募集を、7月29日までの期間で行っている。申請のあった案件について、教育委員会で調査を行い、今後本審議会への諮問を予定している。

#### ○文化財の調査及び資料の収集

- ・上越市内には文化財の指定や未指定を問わず、多くの無形の民俗文化財が伝承されている。しかしながら、少子高齢化・人口減少による担い手不足、新型コロナウイルス感染症の影響による活動機会の減少で継承が危ぶまれているものも見受けられる。
- ・地域のなかでは休止中の民俗芸能を復活させようという動きみられるが、その際、経験者が既になく、小さい頃に見たことはあるが人に教えることは出来ないといった声が聞かれる。
- ・当課としては、市内の無形の民俗文化財の次世代への継承を目的として、現段階での記録を作成し、継承の基礎データとする必要性から、伊野委員を中心に指導いただき、まずは計画づくりから取り組んでいきたいと考えている。
- ・具体はこれから検討だが、調査は指定文化財や「地域の宝」、その他県が実施した既存の調査等で把握されている民俗芸能の現状把握と記録作成を考えている。

#### ② 春日山城跡保存整備事業

- ・春日山城跡の保護を図るため、降雨時の点検や雨水管理、近年増加傾向にあるイノシシ等の鳥獣、被害対策、草刈りや樹木伐採による遺構の保護と景観整備等を行うとともに、春日山城跡ものがたり館、春日山城史跡広場の管理委託等を行っている。
- ・昨年11月就任の中川市長が掲げる公約の一つに、通年観光プロジェクトとして春日山城跡が取り上げられている。令和4年度は部局横断的に組織されたプロジェクトで様々な議論を重ねながら、取り組みの方向性を示す計画を作成予定。

#### ③ 市内遺跡発掘調査事業、④ ほ場整備遺跡等発掘調査事業

- ・今年度本調査を実施する遺跡は高規格道路建設に伴う立場遺跡・蓮華寺五輪塔群の1か所で、現在、秋までの予定で調査を実施している。

・その他は、開発に伴う事前の試掘・確認調査で、それについては県営ほ場整備事業に伴うものが約9割、それ以外の実験に伴うものが約1割となっている。ほ場整備に伴う調査は稲刈り後を予定しており、それ以外の実験に伴う調査は工事計画にあわせて随時行う予定となっている。

⑤ 埋蔵文化財センター管理運営費

・資料記載のとおり

⑥ 「弥生のムラ」コミュニティパーク事業

・釜蓋遺跡の隣接地における事前の調査で、遺跡が広がっていることが確認されたことから、史跡の追加指定の手続きを進めている。

⑦ 歴史的建造物等整備支援事業

・今年度の事業予定は、2件ある。1件目は、柿崎区の楞巖寺山門修理、2件目は、くびき野レールパークの機関車庫の修繕を予定している。

【五百川委員長】

・主な事業について事務局から説明があったが、説明があった事業以外でも、事前に資料を見て質問・意見があれば、お願いしたい。

① 歴史文化推進費について

【浅倉副委員長】

・民俗芸能の調査は、とても良いことだと思う。  
・「北前船寄港地フォーラムに参加」とあるが、当市から報告等を行うのか。

【事務局】

・フォーラムは例年開催されているもので、今現在、フォーラムの主催者である一般社団法人北前船交流拡大機構から、当市に活動状況の報告依頼はない。当市としては、全体会議への出席や、他先進自治体の報告を聞き、様々な自治体と意見交換を行う予定。

【伊野委員】

・上越市「地域の宝」認定制度は、地域から声があがったものをどこで認定するのか。その後のサポート体制、市民への広報は、どのようにしているのか。

【事務局】

・上越市「地域の宝」の認定については、申請のあった内容を事務局にて確認・調査したうえで、本審議会へ諮問し、答申をいただいた後、教育委員会が認定する。

- ・サポートについては、市ホームページや SNS、展示等での情報発信、「地域の宝」の活動団体からの相談を受けて行う、次世代への継承に必要な助言、同じ種別の「地域の宝」を保存・活用する団体同志のネットワークづくりの下支えなどを行っている。

**【天野委員】**

- ・文化財指定件数の表で無形文化財がゼロになっている。民俗芸能は、どこに含まれるのか。

**【事務局】**

- ・民俗芸能は、表の民俗文化財に含まれる。民俗文化財は、有形・無形があり民俗芸能は無形の民俗文化財となる。無形文化財は、技術等が対象となる。

**【西澤委員】**

- ・以前、名立区江野神社の算額の情報を文化行政課に情報提供したが、その後の状況を聞きたい。

**【事務局】**

- ・情報受け、市内の他事例及び、県内事例を調査しているところ。

**【西澤委員】**

- ・継続的な調査をお願いしたい。

**④ ほ場整備遺跡等発掘調査事業について**

**【西澤委員】**

- ・蓮華寺五輪塔群とあるが、蓮華寺は現存する寺院か。また、五輪塔は現地にあり、調査で記録後、どのようになるのか。

**【事務局】**

- ・寺院は現存せず、地名として残っているもの。五輪塔は現地にあり、調査後は他の出土品同様、市教委で保管することとなる予定。

**【西澤委員】**

- ・枳形城跡は、新たに見つかった城跡か。

**【事務局】**

- ・枳形城跡は、古くから周知されており、令和 3 年度に本調査を行った城跡。蓮華寺五輪塔群とも近接しており、関係がある可能性も考え、調査を進めている。

**【西澤委員】**

- ・大間城跡にも近接して五輪塔群があり、山城と五輪塔群の関係に関心がもたれる。

【事務局】

- ・城館と寺、五輪塔群等との関係も注視しながら、調査を進めていきたい。

⑥「弥生のムラ」コミュニティパーク事業について

【西澤委員】

- ・釜蓋遺跡は環濠集落という位置付けだが、平面的に環濠が整備されている。新津の古津八幡山遺跡では堀と土塁が立体的となっており、わかりやすいと感じている。

【事務局】

- ・環濠は、緑色の礫を敷いている。水堀のため、水を入れたらという声もあったが、維持管理の点を考慮し、現状の整備となった。
- ・土塁は遊歩道となっており、また、現地では環濠の規模等がわかりにくいので、ガイダンス施設で環濠の土層断面の剥ぎ取りを展示して、幅や深さがわかるようにしている。
- ・古津八幡山遺跡と釜蓋遺跡との大きな違いは水堀であることで、釜蓋遺跡の環濠の中には、木製品や種子等、当時の情報がたくさん埋まっており、掘り起こすと保存処理等が必要となる。また、法面の処理や、水の供給など、様々な問題があるので、保存という趣旨から、現状のような整備となっている。

【西澤委員】

- ・環濠集落ということで、武器などは出土しているのか。

【事務局】

- ・武器は出土していない。
- ・釜蓋遺跡は、防御よりも、低地の水を利用した流通、交易の場と考えている。防御と言うと堀の内側に土塁を設けるが、釜蓋遺跡は外側に土塁を巡らせており、周辺からの水を土塁で守っているというイメージで整備している。
- ・防御の施設というと、高台の斐太遺跡や裏山遺跡などの高地性環濠集落があり、釜蓋遺跡は今のところ武器は出土していないので、防御施設ではなく、弥生時代から古墳時代の拠点集落という意味合いが強いのではないか。

(2) 上越市文化財の活用状況について (現地見学)

「旧今井染物屋」の活用状況についての現地見学

9 問合せ先

文化行政課・歴史文化係 TEL : 025-545-9269 (内線 616-1241)

E-mail : [bunkagyousei@city.joetsu.lg.jp](mailto:bunkagyousei@city.joetsu.lg.jp)

10 その他

当日資料も併せてご覧ください。